

俳句甲子園メール

2015年寒露号 No.003

NPO法人 俳句甲子園実行委員会 (E-mail:info@haikukoushien.com)

〒790-0814 愛媛県松山市味酒町1丁目10-2

TEL:089-943-1512(平日13:00~17:00) FAX:089-948-4819

松山市役所文化・ことば課 (E-mail:bunkakotoba@city.matsuyama.ehime.jp)

〒790-8571 愛媛県松山市二番町四丁目7番地2

TEL:089-948-6952(平日8:30~17:15) FAX:089-934-1287

俳句甲子園では涼しい風が吹き始めました。第18回俳句甲子園も終わり、皆さんいかがお過ごしでしょうか？今回は皆さんの先輩の思い出話にスポットを当てました。現在はOBOG会として活躍する先輩も、当時は一人の高校生選手。同じように奮闘し、熱く青春をかけた姿をご覧ください。

★夏の夏★ 「マイクを握って 熱いデイベートがしたい！」 俳句甲子園OBOG会会長の場合」

俳句甲子園OBOG会会長・川又さんが、自身の俳句甲子園の思い出を語ってくれました。

「それでは、判定！」

一斉に挙がる紅白の旗。肩を抱き合い喜ぶ高校生、悔しさを涙にしませる高校生。テレビ越しに見たその光景は鮮烈で、中学3年生だった私は一瞬で「俳句甲子園」のとりこになった。

マイクを握って熱いデイベートがしたい！

俳句甲子園の出場は5人1組と決まっているため、一人では参加出来ない。大会未経験の愛媛県立今治西高校に進学した私は、メンバー集めから始めた。何とか呼び掛けに応じてくれたのは3年生の先輩4人。誰もが俳句初心者で、季重なり・切れ字二つも気にせず俳句を提出した。初参加の第6



イラスト 俳句甲子園OBOG会 副会長 若狭 昭宏

「それでは、判定！」
紅白の旗が挙がる。勝ったのは、高田高校。あと一歩が届かなかった。

高校最後の大会、第8回大会。昨年のメンバーは受験との両立が難しいと辞退したため、また一から新しいチーム作り。寄せ集めではあったが、吟行や合宿で俳句とデイベートを楽しむうちに、10年後の今も一緒に俳句を続ける仲間となった。

予選リーグを通過し、準決勝進出を懸けた場面で対戦したのは再び高田高校。全力で挑んだが、敵わなかった。

青春を懸けた夏が、終る

悔しくて涙が溢れ、最後のマイクパフォーマンスで言葉が詰まった時。

「頑張れ、デイベートクイーン！」
観客の温かい声援と4人の仲間を支えられ、最後まで思いをマイクに乗せることが出来た。

高校卒業後、私は「俳句甲子園OBOG会」の一員として行司・司会などの大会運営に携わっている。選手席から司会席へ。そして当時のライバルが、かけがえない仲間へ。選手だった高校生が大人になり、全国から第二のふるさと「俳句甲子園」へ帰る夏。今年もまた、私は強くマイクを握る。

「それでは、判定！」

紅白の旗のみ眩し大南風

川又 夕

(俳句甲子園OBOG会会長 NHK松山放送局勤務)